



中学生の部 最優秀賞

### 「グッドラック」を読んで

遠藤 優香紅 さん  
(志津川中学校3年)



この物語はマックスとジムの出会いから始まりました。まずこの本が私に教えてくれたことは「運」と「幸運」は全く違うということです。「運」というのはそう巡ってくるものではないもので、それが「幸運」というのは誰でも自分の手で作り出すことができるものだという事です。マックスがジムに語ってくれた「運命をわけたクローバーの物語」に登場するシドとノット。この物語を読んでいくうちに私とノットの性格が似ていると感じました。シドとは正反対。私はノットと同じように運だけを信じて今まで生きていたんだなあと実感しました。もちろん信じるということとは決していけないことではありませんが、信じ、信じる以外に何かできたか考えられたかということでは、信じるだけではなく自分で幸運のために努力をしてこなかった気がします。

「誰もが幸運を手にしたがるが自ら追い求めるのはほんのひとにぎり。」という言葉。たしかに、その通りだと思います。誰もが手にしたいと必ず思っているから自分つかうと分かっているから自らつかうとはしないのです。ただ勝手に幸せが来てくれるのを待っている。だからいつまでも変わらない。そういうことを考えさせてくれました。目標もなくただ生きていくだけでは幸せは来なくてはいけません。そしてもう一つは「欲するばかりでは幸運は手に入らない。幸運を呼びこむひとつのカギは、人に手をさしのべられる広い心。」この言葉も誰にとっても大事だと思いました。自分だけが幸せになったとしても本当の幸せとはいえません。人に手を貸し、人を助け、人が幸せになったときに初めて自分の幸せも手元に戻ってくるのだと思えました。それがシドでした。私がシドだったら絶対に人のことまで考えていたらいいし、シドのような名案は思いつかなかっただろうと思います。私も自分のことだけではない人々のことまで考えられるような人になりたいと思います。そして、この本の決め手で

ある最後の言葉は、「幸運の下ごしらえは、自分にはできない。幸運の下ごしらえは、今すぐに始めることができる。」この言葉です。シドがした幸運の下ごしらえ、魔法のクローバーが芽を出すことを信じ、自ら苦労して土を運び、湖の女王に手を貸し、夜を徹して枝を落とし、小石を拾い上げ、モルガナの甘言をささやかれても自分を信じ続けました。すばらしい心の持ち主だと感じました。この幸せの下ごしらえ、つまり努力が実ったということなんです。誰だって努力の分だけの結果は出すことができるというのをシドは証明してくれているのだと思います。また、自分のための幸運の下ごしらえは、自分にはできないという事もこの物語を通して学びました。そして、あの言葉にもあったように幸運の下ごしらえは、今すぐにと実感しました。

と伝わったと思いました。それにこの二人がこうして出会えたのも偶然でもなく運でもなかったと思います。お互いが会いたいと思いつけていたからこそのことだと思います。だからある意味での下ごしらえだったのかもしれない。私もこの物語をきっかけに幸運の下ごしらえをしようと思えます。幸運の下ごしらえは自分にはできないもの、そして今すぐに始めることができるもの。シドのように、そしてジムのように自分の幸せのために下ごしらえができるような人間になれることを願ってこれから努力していこうと思えます。

私はこの本をもっとたくさんの人に読んでほしいと思います。この本を多くの人々が読んでくれればよりたくさん人の幸せがその人たちのもとに届くのだらうと思います。「幸せになるための下ごしらえ。」その大切さをより多くの人々に知ってもらいたいです。自分の幸せのためだけでなく、人々の幸せをも考えることができる人になるのが夢です。いつの日かその夢を叶えたい、と私は思います。

書名: Good Luck  
著者名: アレックス・ロベラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス(翻訳: 田内志文)  
出版社: ポプラ社

## 第2回 南三陸町ジュニア綱引き大会



2月4日(日)、第2回南三陸町ジュニア綱引き大会が町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で開催されました。大会には名足小学校が初参戦し、前回よりも4チーム増えた18チームとなりました。各チームとも、実力伯仲の接戦を繰り広げました。



優勝 エリート名小チーム (名足小学校)



準優勝 入小コング&クイーン (入谷小学校)



第3位 戸小パワフルボディ (戸倉小学校)



敢闘賞 戸倉11スターズ☆☆ (戸倉小学校)